

法政大学人文科学研究科心理学専攻 博士学位論文評価表

記入日 年 月 日 論文提出者名 []
評価者名[主査:] [学内副査:] [学外副査:]

(1) タイトルの適切さ: (S, A, B, C, D)

副題を含め、論文で取り扱っている研究領域および具体的な研究内容を的確に表現するタイトルになっているか。

(2) 問題（レビュー）の適切さ: (S, A, B, C, D)

- 2-1) 取り上げている問題が、心理学的検討を行う上で学術的に有意義かつ独創的であるか。
- 2-2) 問題を構築するにあたり、相応の数の国内外の文献に対し、独自の視点から批判および検討を加えた展望を行い、そこから得られた見解を的確にふまえているか。

(3) 研究方法の適切さ: (S, A, B, C, D)

- 3-1) 掲げた問題を実証的に検討するために適切な方法が用いられているか。
- 3-2) 倫理的な配慮（人権の保護や法令等の遵守）がなされているか。

(4) データ分析法の適切さ: (S, A, B, C, D)

- 4-1) 問題意識を明らかにするために選択した分析方法が適切か。
- 4-2) データ分析のプロセスにおいて、多面的かつ丁寧な検討がなされているか。

(5) 図表表現の完成度の高さ: (S, A, B, C, D)

最終的に論文に掲げる図表として、「心理学研究」のガイドラインに適合し、正確で理解性が高い状態で表現されているか（実験装置や研究のフローチャートを図示したものなども含む）。

(6) 考察における文献の検討と問題との対応: (S, A, B, C, D)

- 6-1) 考察を展開するに際し、先行研究の適切な引用を行い、多面的な議論を行っているか（ただし、他の研究からの引用はあくまで「従」であり、議論の「主」として認められない）。
- 6-2) 単なる結果の再記述にとどまらず、理論的な解釈を加えているか。
- 6-3) 「問題」「目的」と的確に対応した「考察」を展開し、首尾一貫性が認められるか。

(7) 論文の独創性: (S, A, B, C, D)

著者による独創性が適切な形で、問題設定、研究法、結果、考察のいずれかあるいは全体的な組み立てのなかに存在するか。

(8) 全体構成の論理性・明快さ: (S, A, B, C, D)

- 8-1) 博士論文全体を通じて、各章の関係性が明確で、主張が論理的に一貫しているか。
- 8-2) 各章内において、結論とその根拠となる事実との対応が明瞭か。
- 8-3) 論文全体の論理が明快に読み取れるように構成されているか。

(9) 文章表現の明快さ・わかりやすさ、段落構成の適切さ: (S, A, B, C, D)

議論を積み上げ、展開していくに際し、適切な章・節・段落の設定がなされており、章・節のタイトルや見出しを効果的に活用し、それぞれの内容が分かりやすく記述されているか。

(10) 誤字・脱字、表現の不統一: (S, A, B, C, D)

- 10-1) 誤字や脱字、さらに、表現が統一されているか（たとえば、「分からない」と「わからない」の混用や「提示」と「呈示」の不統一などはないか）。
- 10-2) 引用文献の書き方が「心理学研究」のガイドラインに沿って、過不足なく正確か。

総合判定: (S, A, B, C, D)